

好きやねん湖東

# 湖東地区 まちづくり情報誌 第30号



湖東第二幼稚園「餅つき大会」



地域振興事業団主催「歩け歩け2007」

# 今年も元気いっぱいでした!



湖東第一小学校「マラソン大会」

## 我が家のエコ調査

～着なくなった洋服 編～

《西澤さんちの場合》

私 (20代女性)

- ① フリーマーケット※で売る
- ② 小さく切って掃除に使う

兄 (30代男性)

- ① 捨てる

母 (50代女性)

- ① 可能ならリフォームして着用
- ② 最後に小さく切って掃除に使用

父 (60代男性)

- ① 不要な物は買わない

祖母 (80代女性)

- ① 穴が開いたら継ぎ、すり切れたら補強してとことん着る
- ② 袖を切って手さし(アームカバー)に。カーデガンならチョッキに。
- ③ ボタンは取って残しておく
- ④ 最後の最後に切ってぼろ切れにする

ごくごく一般的な我が家ですが、家族の中でも私はエコを考えているつもりでした。

しかし、祖母の「もったいないから最後まで使わせてもらう」という姿勢に改めて感服しました。また父の、『買う時に考える』ということも大切なエコではないかなと思います。

これなら、誰でも今すぐできるはず！

皆さんも、身近なことから「私にできるエコ」考えませんか。

※東近江市で開催されるフリーマーケットの情報は市役所の廃棄物対策課で教えていただけます。(早苗)



袖を切ってチョッキに生まれ変わったセーター

## コナリエからエコナリエ パート3

ペットボトルのキャップが、リサイクルできることを皆さんご存知ですか？ キャップは、ボトルの部分と違い、上質なプラスチック(ポリプロピレン:PP)で出来ていてリサイクル可能な資源になります。

現在は、不燃ごみとして焼却処分されていますが、キャップ400個で3150gのCO<sub>2</sub>を発生します。

「小さなキャップでも混ぜればゴミ、分ければ資源！」私たちコナリエ実行委員会では、キャップ回収運動をしていきたいと考えています。

なお、回収方法を考えているところですが、まず皆さんの意識の共有が大切です。

「各集落のゴミ置き場に回収ボックスを設置できるといいのになあ」と考えています。

ただし、必要以上にペットボトルを使用することはやめましょう。リサイクルよりもゴミを出さないことの方がもっと大事。我が国のペットボトルリサイクルの現状、ご存知ですか？ 70%はリサイクルされていますが、30%は回収不能。リサイクルのうち日本で30%、残りの40%は中国に運ばれてリサイクルされているのですよ。

それとスチール缶のプルトップがアルミで出来ているって知っていました？

我が家では、はずしてリサイクル収益で車椅子を寄贈する団体に協力しています。

〈右の写真〉(楠亀)



## 環境学習会「びわ湖の葦<sup>よし</sup>について」に参加して

「びわ湖」の環境を守る手段として、葦がどれくらい大切な役割をしているのかが理解できました。その葦を守るためには、多くの人たちの協働と努力があります。私たちにできることは、その葦を使った紙を使用することで、一人ひとりが少しでも「びわ湖」のことを考え、エコ活動を意識できるようになればと思います。☆(真輝)

各集落で取り組んでおられる「農地・水・保全向上対策事業」に環境学習会は、どうですか！！

環境学習会をご希望の方は、

(株)コクヨ工業滋賀 37-3611 担当 環境推進 太田 俊浩 まで



## “体脂肪率測定”を実施！

大沢町の健康推進部の太田美代子さん、杉村千代子さんは、11月11日（日）「土と文化のまつり」で健康推進部のコーナーを設けて、来場された方々の血圧測定、体脂肪率測定を通じて健康への指導をされました。

体脂肪率測定は、お年寄りの方はあまり馴染みがなく、「どのような測定なのか」、「この数値は、良いのか悪いのか」と熱心に尋ねておられました。

幸いにも皆さんの中に、目立って数値の悪い方はおられなくて、推進員さんも、ほっ！とされていました。

これからも住民の健康維持のために活動をお願いいたします。（@嘉）



測定中・・・

## “大人の食育講座”の開催

11月18日（日）、“地産地消”をテーマにした「大人の食育講座」を湖東保健センターで開催しました。

飽食時代といわれている今日、様々な食品を自由に摂ることができますが、その反面、偏った食品を摂り過ぎることが、生活習慣病の原因となっています。

そこで、健康推進員では、皆さんにバランスを考えた食品選びを学んでいただくとともに、旧来からある食文化の伝承を提唱していこうと試みをしています。（喜美子）



## “健康推進員とは？”

Q 誰でもなれるの[?]

A 健康推進員は、地域の保健衛生活動の推進、地域住民の健康増進を目的に活動をしていただきます。そのためには、市が開催する健康推進員養成講座を受講し、食生活、運動、歯科保健、公衆衛生など、様々な分野の勉強をした上で、健康推進員として委任させていただいています。

現在、湖東地区では28名の健康推進員が活躍されています。

## 地域の話①

### 第三小学校が

### 「どんぐり作業所」 と交流



（写真提供：第三小学校）

湖東第三小学校では、北花沢町にある「どんぐり作業所」と、運動会や校内相撲大会などの機会を通じて交流活動を行っています。11月30日には6年生の26名が同作業所を訪れ、作業などを通じて交流しました。

この日は、まずダンボール箱の加工作業を手伝いましたが、児童たちは作業所の人たちに教わりながら真剣に作業に取り組みました。

そのあと、作業所の人たちと児童らは、いっしょに歌を歌ったり、ゲームをしたりして楽しみました。

なお、5年生の29名も、10月5日にどんぐり作業所との交流会を開きました。（野村）

## 地域の話②

### ロボコンで長友くん（第三小）が活躍

大阪で行われた、コンピューターで制御するロボットの操作技術を競うコンテストで、湖東第三小学校5年生の長友 陽太郎くんが、八日市南小学校の森 優くんと組んで、みごと第2位に入賞しました。

西堀榮三郎記念探検の殿堂では、1年半ほど前から京都大学講師の北原達正さんを招いて小学校4年から中学校2年までの子どもたちにロボットづくりの講習を行っています。

11月4日、大阪南港のアジアトレードセンターで開かれた「第4回スペースロボットコンテスト」に、探検の殿堂のココロボから予選を勝ち抜いた2組が出場しましたが、関西地方の並み居る強豪チームと競って、長友くんの組が2位、他のチームも3位に入賞するというすばらしい成績を収めたものです。

このロボットコンテストでは、コンピューターを制御するプログラミングの能力が問われますが、わずか1年半での勉強で高いレベルの技術を身につけた長友くんらは、関係者から称賛を浴びていました。（野村）



# 防災を考える

## 地域は、私たちが守る！

11月25日(日)、平柳町で防災訓練が行われました。  
東近江市消防団員の方から、防災に関する話を聞いた後、最初に消火器による消火訓練を行いました。

参加された方からは、「一ヶ所に集中では、なかなか消えないね」、「ノズルの先をしっかりと持たないとあかんわ」と感想を頂きました。消防団員からは、「左右に振って消してください。手前から奥へと火を追うように」と、消火器を扱う場合のアドバイスがありました。

その後、消火栓を使用して、放水作業の実技を経験しました。ホースを握った女性からは、「やっぱり実践は大切なことだ」「触れたこともなかったから、やってみてよかった」という声が聞かれました。

火事は、決して他人事ではありません。日頃から家庭・地域は自分たちで守るものと考えて、皆さんも一度は、消火訓練を経験されることをお奨めします。(太田)



## 日常の点検が大切です！

12月2日(日)、北清水町では、集落内の排水路清掃作業に先立ち、恒例の行事として今年も消防訓練が行われました。

各戸1名と子どもたちも参加して、東近江市第18分団消防団員の指導の下、初めに10月1日スタートした緊急地震速報の対応の仕方について説明を受けました。その後、消火栓の使い方やポンプの操作手順、後始末のポイントなど、実演を交え指導いただきました。

毎年のことなので頭ではわかっている、「もし、火災が発生したら、はたして理解しているとおおり、一人ひとりが間違いなく行動できるか」疑問です。

東近江市になって、以前の自警団の組織がなくなり、日々の訓練やポンプの点検もおろそかになっていて、集落として防火体制の見直しを迫られています。

今後は、各組の防火担当役員さんを中心に、毎月行われている「かまど点検」と併せて、ポンプの点検などを行い、万一の際に、トラブル無く確実に誰でも操作ができるよう訓練を重ねていきたいと、自治会長さんの熱意が伝わる訓練でした。(高田)



<編集・発行>

湖東地区まちづくり協議会



(事務局)

〒527-0113 東近江市池庄町505番地

東近江市 湖東支所 地域振興課内

TEL 45-3702 FAX 45-1570

IP 050-5801-3702

## まち協だより

○12/2に開催された自治会長会議において、来年度から各町に(仮称)「まちづくり推進員」さんを1名選出していただくようお願いしました。今後は、各自治会と連携して活動していきます。

○1/13に開催される湖東地区の「二十歳の集い」を影で支えてくださるボランティアを募集しています。興味のある方は左の連絡先まで。

<<お便りはこちらまで>> k-chiiki@city.higashiomi.shiga.jp